



# Weekly Report

青い空 緑の山と風  
黄色のうねりは  
人類の理想 文化を表わす。  
それらが混然一体調和して  
ロータリーの理想に向って  
昂って行く姿を示している。



地区の標語 **原点に帰りロータリーの心を学ぼう**  
クラブの標語 **親睦と奉仕でクラブの和を深めよう**

## 第238回例会報告 (9/20)

(1995年～1996年度第11回例会)

◎司会 SAA委員会 委員 猪股 末男

◎点鐘 会長 萩生田茂夫

◎ロータリーソング ソングリーダー 吉沢 洋景  
「日も風も星も」

◎会務報告 会長 萩生田茂夫

- ① 先日(9月13日)の創立5周年記念式典の折には  
会員皆様の御協力によりまして、無事に挙行出来ま  
したので、厚く御礼申し上げます。
- ② 9月11日、財団委員長会議に出席致しました。準  
フェローの加入促進11月の財団月間には、地区の財  
団委員が、いつでも卓話に出席しますので、是非地  
区に申し込み下さい。
- ③ 9月30日、夜間例会後に理事会を開催します。
- ④ 東京調布むらさきRCの5周年式典に登録された  
方は必ず出席して下さい。

◎幹事報告 幹事 橋口 洋三

創立5周年記念式典も終わりました。御協力ありが  
とうございました。

- 1) 来週9月27日の夜間例会、再来週10月4日の例会  
は、京王プラザホテル多摩で行います。
- 2) 調布むらさきRCから、5周年式典の一部変更の  
ご案内が来ています。  
9月29日(金)式典を調布市文化会館“たづくり”  
で行います。
- 3) GSE派遣チームメンバー候補者推薦お願いが来て

います。

来年度はロータリー会員の従業員を選抜するそう  
です。

アメリカ、サウスカロライナ州/コロンビア近郊。

期間 平成9年3月29日～5月3日まで。

英語が堪能である者。ほとんどの経費はロータ  
リー財団および訪問国のロータリークラブが負担す  
るそうです。会員の会社、団体の従業員を推薦して  
頂きたいと思えます。

4) 地区青少年交換委員会から

① 東京南RC主催「セブテンパーフェスティバル」  
ご招待のご案内が来ています。

9月28日(木) 東京ヒルトンでドイツ式パー  
ティー・ロータリアンとの交流会。 mette・アル  
ス・オールセンさん出席。

② 東京昭島RC主催「友愛の広場」ご招待のご案内  
10月15日(日) ロータリアン、インターアク  
ト、ローターアクト、その他の留学性との交流会  
で、交換学生の小野さん、鈴木さん、和気さん、  
mette・アルス・オールセンさんが出席します。

5) 米山奨学生の宗珉煥さんから葉書が届いていま  
す。

『私は現在ソウルにおります。5周年記念日に参  
加出来なくて申し訳ございません。10/4にお  
じゃましようと思っております。』

6) ロータリーレート変更のお知らせが来ています。

9月29日まで1ドル88円 10月1日から96円が  
適用されます。ポールハリス準フェローの場合、8  
月が8400円、9月が8800円、10月から9600円に  
なります。

7) 創立5周年記念の記念品(緑の袋)を持っていか  
れた方は回覧を回しますので○印をお付け下さい。

ロータリー・ダイアリーのご案内も回覧しますの  
でご入用の方は○印をお付け下さい。

## 委員会報告

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会委員 坂田 育男

萩生田茂夫: 皆様のご協力によりまして5周年式典が  
無事終了できましたので。

橋口 洋三: 創立5周年記念式典も終り昨日東分区野  
球大会で稲城RCに37対1で勝ったの  
で。

## 東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会 長: 萩生田茂夫 副委員長: 吉尾警太郎・山崎 光一  
幹 事: 橋口 洋三 委 員 平野行廣・飯島裕美・根本泰守  
会報委員長: 小城 章員 関岡俊二・城倉正博・戸田昭寿

例会場 多摩そごう7F バンケットルーム

事務局: 東京都多摩市落合1-9-1

多摩センタービル7階

TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491

例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

橋口 洋三：本日の細則の解説、宮本情報委員長、よろしくお願ひします。

坂田 育男：久しぶりに野球が出来ました。

宮本 誠：5周年無事終了よかったですネ。

小城 章員：創立5周年事業無事終了しました。ありがとうございました。

根本 泰守：クラブの5周年記念事業の大成功と自分の誕生日を細々と祝って。

村上 久：東分区野球大会ご苦労様でした。萩生田会長、昨夜は御馳走様でした。

津守 弘範：先日の孫のお宮参りの写真、佐伯さんありがとうございました。

大松 誠二：5周年式典・野球大会みなさん本当におつかれ様。

吉沢 洋景：5周年記念行事がすべて無事終了して、ほっとしました。皆様御苦労様でした。

橋本 幸夫：5周年記念事業無事終了出来ました。実行委員の皆様ご苦労様でした。

海野 栄一：昨夜の野球、対稻城戦でホームランを打ちましたので。

伊東 巖：先日の5周年記念式典は皆様にご迷惑をおかけしました。受付グループの皆さんありがとうございました。

本日合計 金34,000円 本年度累計 金259,106円

◎出席報告 出席委員会委員 小坂 一郎

会員総数	54名
出席者数	43名
本日出席率	79.63%
9/6 出席率	88.89%

■ メークアップ 4名

中山 恒武 (9/19多摩)  
 根本 泰守 (9/18社奉委員長会議)  
 高村 弘 (9/19多摩)  
 田中 實 (9/14調布むらさき)

■ 欠席届出者 9名

石田 政昭 風間 茂穂 小林 和夫  
 森田 舞子 中山 恒武 奥田 文夫  
 関岡 俊二 高野 範城 白井 博

■ 欠席者 2名

北村 幸彦 戸田 昭寿

◎ロータリー豆知識 ロータリー情報委員会委員長 宮本 誠

今回は定款の解説です。前回綱領の前半を解説致しましたが、綱領は特に重要な部分なので、最後までしっかりとやっておきたいと思ひます。したがって本日は後半ですが、全体的に解説致します。定款第3条綱領について、第1、第2、第3、第4項目の解説と一部訂正について。

◎クラブ会報委員会 委員長 小城 章員

会報一部訂正について  
 第237回例会報告の中から  
 “福島和義様 (東京武蔵府中RC会長)”  
 →副会長  
 会報をぜひお読み頂いて、ご批評下さい。

◎財団法人ロータリー米山記念奨学会 表彰状授与

表彰者 会長 萩生田茂夫 副委員長 伊藤 英也

◎クラブ奉仕委員会 委員長 足立殉三郎

萩生田年度も3/12が終り、5周年記念式典も大成功をして終り、これからは各委員会の活動計画書に基づき、いかに実行して頂くか、又実行委員会として、どのように手助けをしていけるかという事ですが、12月3日午後7時より南野商事におきまして、委員長・副委員長会議を行いたいと思ひます。委員長、副委員長の内、どちらかが欠席されるような場合でも必ず2名出席して頂くようお願い致します。

◎創立5周年記念式典について

実行副委員長 小城 章員

8月9日のチャリティコンサート及び9月13日の記念式典には大変な御苦労をおかけ致しました。ありがとうございました。いろいろ反省する事もあろうかと思ひますが、それにつきましては後日反省会を持ちたいと思ひます。10月4日に決算報告する予定にしておりますので、会計の方に早目に費用報告を提出して下さい。保存資料の整理、保存をしたいと思ひますので、各リーダーの方々お手元のものを私か、事務局の方に御提出お願い致します。

実行副委員長 杉田 誠

私、副委員長という大役をおおせつかっておりました但实际上はイベント担当でした。皆様の協力を頂き大成功の内に終了する事が出来ました事、本当に皆様の協力の賜物と存じ上げます。誠にありがとうございました。

実行副委員長 吉沢 洋景

各担当の方々の御協力を得まして、無事全うする事が出来ました。ありがとうございました。後日、予定では10月11日にでも御苦労さん会を行いたいと思っております。リーダーの方々は何論、多くの方々に参加して頂きたく、後日集計をとらせて頂きます。よろしくお願ひ申し上げます。

◎野球同好会 藤本 吉文

昨日を持ちまして東分区野球大会を無事終了致しました。練習試合を含めて連続4週間、同好会の皆さん、応援してくれた方々等々本当にありがとうございました。御礼申し上げます。

◎細則改定について ロータリー情報委員長 宮本 誠

検討委員会を設ける事及びその人選については情報委員会に付託する事に決定して終了。  
 (今週の担当：飯島 裕美)

## 【卓 話】

### 「フィルム市場開放」

日本アグファゲバルト（株）

代表取締役社長

ウォルター・ストーク様



今迄、フィルム市場は、話題性がなかったのですが、極最近、突然変わったのです。その理由は、5月17日、写真業界で最大のアメリカメーカーでありますコダック社が、300Pのごつい報告書を出した。この内容は、もう日本の一般紙、あるいは専門紙にも話題になってきと皆さん、それをよく読んでいらしてご存じだと思います。それについて、もう少しその背景を遡って、皆さんにお話して行きたいと思います。私は、先程もご紹介して頂いたと思いますが、もうすでに31年日本に過ごしております、1965年来日、しばらくして愛妻のアヤコと結婚しまして、今日まで至っているのですが、その当時、カラーフィルムというのは実に貴重なものでありまして、こちらに参ります前に、ちょっと日本人に聞いてみたのですが、「あの当時のカラーフィルムの値段を覚えていますか？」と。覚えていると言い、120円だったと。1963年、ちょうどアグファが、かなり積極的に活躍しまして、新しいプリントサイズを開発して70円で発売した。36枚撮り70円として2520円、フィルム代が1410円、合計、あの当時現像料込みで、36枚撮り写真は、4000円かかった。その当時の収入を考えると5~6万あれば多い方ですから、1本のカラー写真4000円は、大変貴重な商品だったのです。現在3本パック、498円。40円値下げで、458円。3で割りますから100円足らず。プリントは今、0円と言う価格表示もあり、ヨドバシさんは、700円を切る価格でプリントと現像はして頂けます。時代は変わり、現在の収入から考えて、カラー写真・カラープリントは、貴重なものではなくて来ました。ちょうど当時は、日本のメーカーは、それ程技術的に進んでいなかったもので、カラーフィルム・カラープリントと言えばコダック、我が社のアグ

ファ、この二社が発明した商法が、それぞれどちらがいかという事はなくそれは別として、これは全く互換性がなかった。と言うのは、フィルムを作成した後、現像に出しますが、どちらのフィルムでも同じ現像が出来れば良かったのですが、コダックの現像液にアグファのフィルムを入れても絵は出て来なかったし、逆にアグファの液にコダックのフィルムを入れても絵は出て来なかったのです。そういう当時、VHS・ベータと考えれば同じ様な状況で、それはその後解決されましたが、2つの大きな存在は問題になりました。問題になったと言うのは、1964年、日本のメーカーさんの富士フィルム・さくら、この二社に最近つづれましたオリेंट写真工業が、カラー写真を出しました。フジ・コニカさんが通産省の協力を得て、コダック並みのカラーフィルムが出来、技術を導入して、大変高いレベルの製品が出来ました。これは国産に対して高いレベルでの出発点になりました。しばらくして様子を見ましたが、海外メーカーに対して一つの大きな問題、自由貿易ではなかった。要するに輸入税、即ち関税ですね。この頃、買入価格に対して40%課税されました。あの当時、日本の国は十分な外貨がなかったのです。外貨の制限があり、枠で制限があった。日本国内のメーカーさんが技術導入して、海外メーカーがあらゆる輸入性の高さの為、あるいは外貨性のなさの為、十分な競争が出来なかったので、国産が、かなり急激に伸びて来ました。それに対して別に何も無いのですが、日本の経済成長の為の作戦であって、それはそれで良かった事だと思います。我々アグファとして、先程も申し上げましたが、この2つのカラー写真の方式が決まって、国産のその方式をコダックが導入しましたので、突然アグファの仲間がなくなり非アグファ派が強くなった。しばらくしてアグファはフィルム市場から引退しました。しかし、相変わらず写真業界と強い付き合いがあった為、フィルムや印画紙だけではなく、まずフィルムを現像してネガが出ますね。そのネガを印画紙に焼くんですね。その印画紙にネガを焼きつける為には、かなり複雑な高度な技術が必要で、そういう意味でアグファは戦後から優れた物をずっと開発して製造して、日本で関税の為に販売出来なかった時でも、機械で活躍させて頂きました。その後、1971年頃から日本市場は少しずつ開いて来ましたが、まだ関税が高く1990年頃、少しずつ関税がなくなって来たので、それほど、昔の事ではないのです。国産がこういうあらゆる政府の助けがあって、日本国内の市場は急速に開拓出来、まず流通経路の立派なものを作りました。又、現像商法のネット、つまり網ですね。先程も言いましたが、一番始め、カラーフィルム現像料金込みで販売で、その理由はあの当時現像すると言う事はまだ技術的に難しく、複雑で簡

易的な意味で誰でも出来るというのではなく、指定で現像されました。カメラ店が小売店に持って行って、現像商に出し、又それを小売店に戻し、カメラ店を通して返ってくると言うやり方でした。フィルム代と現像代がそれぞれに別にかかったので、複雑な仕組みであった。その後政府の指定で、1965年8月、現像料とフィルム代は分けられた。その当時から、現像は誰でも出来た。その為に、徳に国産の現像商の数が増えて来た。フィルム市場は普及して来た。アグファが、フィルムの販売を引退したのは、1975年ですが、その当時コダックは関税の問題も別になかったが、伸びてこなかった。その理由は、私が言うべきではないと思いますが、逆に日本のメーカー、要するに国産のその当時の動きを見てみますと、かなりの動きで伸びたと思いますし、見事だったと思います。いくつかの例をあげますと、例えばアメリカのコダックさんはフィルム市場を支配する為に、サイズのシステムを開発して市場を導入しようとした。フィルム・写真がどれ程なじみのある物かどうかわかりませんが、パックフィルム126、あるいはボンテンという幅の狭い16ミリのもの、あるいはディスクフィルム、みんなコダックが開発したものですが、どれも成功しなかった。市場から消えてしまった。そのかわりに日本のメーカーさんもコダックさんの商法を守って来た。いろいろ開発して延長戦として、今迄のフィルムの標準感度、これは理想は100、1987年、フジフィルムさんは突然もっと感度のいい物という事で400の感度を開発しました。これは大きなもう一つのマユスト、要するに画期的な事ですね。まず今迄、望遠レンズとか使いますとフィルム感度は低ければ、やはりシャッタースピードも落ちないと良い写真が撮れません。しかし望遠レンズで撮りますとブレが予測されますので重くなれば手の安定性も弱くなる。もう少し感度の高いものがあれば、シャッタースピードが早くなるし、写真のブレも少なくなるという、いくつかのメリットがある。一般のアマチュアよりもプロとかマニアとかそういう方々に非常にありがたい進歩でした。400フィルムが出来た事によって、カメラの苦手な人、ご婦人にも要するに使い捨てというかカメラとフィルムが一緒になっており、スピード・しぼりに関係なく、そのまま撮れる。しぼり一つ、シャッター一つ、どこでも撮れるレンズに特徴があり、大変見事な技術は、カメラの関係で開発された。フィルム感度が高くなければレンズのしぼりが絞れない。レンズ付フィルムの存在は見事な物でレンズの整形が開発され、さらに400の感度があったから新しいカメラの部類が生まれて来た。これも日本市場で生まれて来たものです。そういった関係でここでまず市場はあまりフリーでなかったから、それ程熱い競争とか圧力がなかった。日本のメーカーは、その為、独自の思うような製品を作り、市場を押さえられて来たのではないかと。もう一つ、

日本市場の面白い特徴は、皆さんご存じですが、日本のフィルムメーカーは二社あります。フジ・コニカで不思議な事に歴史的にコニカさんの方が古い。フジは70%以上のカラーフィルムに対する市場を持っている。どうしてか。いろいろな解説があるのですが、納得出来るような解説はありません。結局、開発力・マーケティングの優秀性、この2つの意味でフジフィルムさんは伸びて来ているのではないと思う。日本の市場があって、日本の市場で自由に製品開発が出来て、見事に成長して来た。フジも日本国内のやり方、教科書通りのマーケティングですね。もう一つ、フジフィルムさんの市場70%の指示は、カラーフィルムと言えばフジ。その為、何も言わなくてもフジで撮った写真はフジの味があり、マーケティング的な意味で言えば結局差別出来た。70%マーケティングを持っていればこれは言う事はない。もう一つ、フジとコダックの争いのデータがいろいろ出て来ますが、やはりフジの日本国内での広告市場の膨大なかけ方。コニカ・海外メーカーは、それに対応がない。一つ不思議な事は、フジの日本の姿を鏡に写したような事がアメリカにもあるのですが、これがコダックなのです。アメリカの市場は、全く同じ広告の膨大な販売の網。全く日本のフジの日本市場と同じ事である。それにもかかわらず、コダックが停滞した事に理解出来ない。たくさんこの問題に、報道会社も何回も話を打ちかけて、海外からも通産省からも来る。何故こんなに興味があるのかと思うが、結局アメリカと日本、大手のコダックとフジの戦いの為に注目しているのではないかと。我々アグファは、カラー方式。つまりコダックの方式に切り換えて日本の市場に再び導入して来たのは、1990年。大変難しかった歴史的背景の中で小売店・現像商・組織・組合は、アグファを待っていたのではないと、コダック・コニカ・フジ、4つあってどうするのかと言う事であったが、粘り強く、始めはヨドバシに相手して頂いて代理店などに行き、今は3本パック・458円、24枚撮りを出しました。日本の市場は、決して閉鎖的だとは思っていません。メーカーとして、ユーザをつかんで、それに合う製品を送れば、社会に役立つと思っています。今後とも、ドイツ、ベルリンにあります。きめ細かくフィットバックして、引き続き妥当な価格で日本市場に流したいと思いますので、よろしくお願ひします。ありがとうございます。

第236回 (9/6) 例会において

(卓話担当 戸田 昭寿)

